

# エコパーク通信



平成28年5月号



私は埼玉県川越市に在住で御前崎出身です。毎月1回、1週間ほど御前崎に帰ってきています。8年前、「裸足で歩ける砂浜を取り戻したい」と同級生が主体となって立ち上げたボランティアグループがあり、「海岸線の〔マリパークから白羽海岸（広沢）までの砂浜〕の清掃活動」を続けています。砂浜には、ペットボトル・プラゴミが多くて5日に1回の清掃では拾いきれず心が折れそうになります。

その頃、御前崎エコクラブにも仲間入りしました。海岸の砂浜に比べ、御前崎エコパークは素晴らしい。その場所は、女岩の街並みと御前崎港に挟まれた細長い公園です。どこにもあるコンクリートに囲まれた公園とは異なり、手づくりで木のぬくもりを感じることが出来る癒しの空間です。エコクラブの皆さんの情熱と継続的な活動をここかしこに見ることが出来ます。

川越の隣の日高市に有名な「彼岸花の里」があります。数年前エコクラブの皆さんがバスで視察に行きました。その時の研修を活かし、園内に70mの真っ赤に咲く曼珠沙華の通りが見られるように作業をしていただきました。また、仲間とのインドネシアの視察ではリュウゼツランなどが印象に残りました。園内にある（上記写真右）リュウゼツランを活かし、テレビ等で取り上げられうれしい限りです。インドネシアの若者との実践交流の場のエコパークに帰って来た時は必ず寄ります。こんなに良い公園があることを、誇りに思うとともにうれしさがぼつぼつと積み上げてきます。皆様もゆっくり歩いてみてください。

澤入 輝夫

ガザニア

トリトニア



シラン

本年度の総会が4月17日（日）、園内の花小屋にて開催されました。前年度の会計・日々の活動を報告後、今年度の活動計画等の意見交換をしました。その後、講師として招いた市議会議員から「これからの御前崎」についてお話を聞き、閉会しました。

御前崎エコクラブ会長 山本貴美枝